

第52回

通常総代会に向けた
第1次議案書

私たちの東都生協

2026年6月の第52回通常総代会に向けて、
2025年度の活動と2026年度の方針(案)を
お知らせし、東都生協組合員の声を募集します。
商品・サービスの感想や、活動・運営について
日頃感じていることなど、お気軽にお寄せください。
皆さんのが声は議案に生かし、組合員のくらしに
一層貢献していきます。



総代会とは…

組合員から選ばれた
代表=総代(定数550人)が、
生協の1年間のまとめと
次年度の活動方針・
事業計画などを決める
大切な会議です。

2026年度 総代会までのスケジュール

1/19~23

「私たちの
東都生協」を配付 (本誌)

ホームページや
8ページの二次元コード
からも「声」が送れます!

2/13 金

「わたしの声カード」
提出締め切り

いただいた声は
総代と共有します

お忘れ
なく!

6/11 木

第52回 通常総代会
(総代が出席)



総代会議案の確定

総代会の決議内容を
全組合員に報告

「産直」「協同」「民主」
—いのちとくらしを守るために—



東都生活協同組合

東都生協ホームページアドレス
www.tohto-coop.or.jp

この冊子は、組合員全員に配付しています。

食べること、 育てることは 平和であってこそ 協同のチカラで いのちとくらしを守ろう

2025年を振り返って…

米不足はさらに顕著になり、異常気象で今後も
食べ続けられるかの不安が深まりました。

また、目を背けたくなるような理不尽な紛争も、
はっきりとした出口は見えないままです。

一方で、世界中の協同組合がよりよい世界を築く
ために奮闘していることを再認識する国際協同
組合年でもあり、被爆・戦後80年として、当時を知る
人たちの語りに耳を傾け、語り継ぎ伝え続ける決意
を新たにした一年でもありました。

食べて、育てて、いのちとくらしをつないでいけるの
も、平和であってこそです。

今こそ、東都生協に集う皆さんのチカラが必要です。

本誌を読んで、
7・8ページの
「わたしの声カード」
(アンケート)で
意見や要望を
お出しください。

平和なくして生協なし を体現・実感した2025年!

01 国際協同組合年



国連は、持続可能な生産と消費、食料安全保障、気候変動対策、地域の人々への医療・福祉、働きがいのある人間らしい仕事の創出、すべての人が参加できる社会づくりなど、さまざまな分野で持続可能な開発目標(SDGs)に貢献していると協同組合を評価し、その認知の向上と協同組合の振興のために、2012年に引き続き、2025年を「国際協同組合年」と定めました。124カ国930以上の団体からロゴの使用申請があり、100近く催し物が行われたとのことです(2025年11月6日「日本農業新聞」)。

東都生協は、他の生協や農協と共に、7月から9月にかけて4つの国際協同組合年企画に参画。協同組合としてのアイデンティティを改めて学習するとともに、社会に向けて協同組合の存在意義を大いにアピールしました。



7月5日、東京国際フォーラムにて2025国際協同組合年全国実行委員会主催「協同組合フェスティバル」に出演しました。



8月9日、JA東京中央と「再発見!協同組合フェスタ」を共催。

02 第21回 平和のつどい



7月12日、北沢タウンホール(下北沢)にて開催。スローガンを「世界に届け、平和の祈り」とし、ステージでは、被爆・戦後80年として、一般社団法人東友会代表理事・家島昌志氏からノーベル平和賞授賞式報告や、東友会主任相談員・村田未知子氏から東友会と東都生協とのつながりの歴史などのお話をパネルディスカッション方式で行った他、膝掛けの贈呈、紙芝居上映、ピースアクションinオキナワ参加者からの報告など、改めて平和について考える機会となりました。

会場ロビーでは、「平和の願いの樹」メッセージカードの記入と展示、原爆と人間パネル展示、平和文集閲覧、横断幕展示、折り鶴展示と作成コーナー、戦争ほうき配付と紹介パネルの展示などを行いました。



ロビーでは参加者が折り鶴を折っていました。

03 子ども平和新聞

戦後80年、後世に平和のメッセージを継承するため、日本生協連が企画した「子ども平和新聞プロジェクト」に東都生協も参加しました。

小学4・5年生の子ども記者5人が、新聞記者から取材方法、新聞原稿の書き方を学び、平和のつどいでの被爆者の方への取材などを通じ、みんなで「核兵器廃絶新聞」を作りました。



04 日本の水田を 守ろう!

8月22日、新宿の東京都農業会館にて、「日本の水田を守ろう!みんなdeミーティング」を開催しました。オンライン中継もあり、全国から生産者、卸業者、農協などが参加し、米不足の背景や米作りの現状などの報告、生協組合員(=消費者)として何ができるか考える機会としました。10月から11月にかけては、各地域委員会で、8月のミーティングの動画を見ながらお米について考える企画を開催しました(5ページも参照ください)。



会場の様子

フロアからの発言もありました。

05 今年も開催! とうとフェス

「産地直結を体験!とうとフェス」を10月11日(土)に足立・杉並・町田の各センターで同時開催し、3会場で産地・メーカーなど77団体206人と来場者673人がにぎやかに交流しました。組合員や近隣住民の皆さんとたくさんの来場がありました。



各ブースでは、産地・メーカー、きょうされん(7ページ参照)所属作業所の商品販売や試食などを通じて交流を楽しみました。また、EVトラック(7ページ参照)の体験、バンドやエイサーなどその会場でしか体験できないオリジナル企画や、3会場共通のスタンプラリーなども行われ、子どもたちの笑顔もあふれていました。

[町田センター]
須黒食品の移動販売車が出張。



[足立センター] 参加メンバー全員で記念撮影!

あなたの地域の組合員活動



生協は組合員が主役。みんなで手をつなぎ、願いを実現していく生協の中心に、くらしや地域を豊かにしていく自主的な取り組み「組合員活動」があります。東都生協は活動区域を9つの「地域」に分けています、地域や時間を越えた活動も盛んになってきています。

生協とは

生活協同組合は、地域の消費者がよりよいくらしを実現するため自発的に集い、協同で運営する非営利組織です。消費者一人ひとりが出資金を出し合って組合員となり、商品やサービスを利用し、生協の運営に参加します。生協は、営利企業のように利益を出すことではなく、組合員のくらしを守り、より良くしていくことを目的としています。生協の組合員は、出資の多少に関わらず「1人1票」の平等な権利を持ち、民主的な運営を行っています。

2024年度からは新しい組合員活動スタイルが始動。一人からでも「やってみたい」という気持ちを大切に、楽しく活動に参加できます。組合員どうしや地域住民のネットワークをつなぎ、くらしの問題解決に取り組んでいけるような仕組みです。

名称	要件	活動内容
このゆびとまれ	組合員または同居家族	ひとりから登録・参加 地域委員会に登録し、東都生協組合員の中で自分と同じ興味・関心を持つ仲間探しをします。メール登録で、地域の活動情報が届きます。
活動アシスト	組合員活動経験者、スキルや経験のある組合員	活動経験者が登録・運営補助 企画で、活動経験や得意なことを生かした役割を担い、初めて参加・参画する組合員の活動を後押しします。
とーとフレンズ	組合員 2人以上	2人以上の仲間と一緒に登録・活動 生協の産直や商品について学び合うことを前提に、興味・関心のあることでつながり合い、よりよいくらしや願いを実現するための自主・自発的な活動を行います。



第1 地域
足立区・荒川区・江戸川区・葛飾区・江東区・墨田区・台東区・草加市・八潮市・越谷市・三郷市・吉川市・松戸市・市川市・浦安市

自分のパーソナルカラーを知ろう!

■7月9日(水) 龜戸文化センター

初参加3人を含む13人の参加でした。2グループで、カラー見本を使いお互いの診断を行いました。最初は難しいと感じていた参加者も、講師のアドバイスを受け、最後には全員が自分に合うカラーを見つけることができました。講師からの「無難も良いけれど、センスよくおしゃれを楽しみたいですね」との言葉に頷きながら、楽しい交流の時間となりました。

第2 地域
大田区・品川区・渋谷区・港区・目黒区・中央区・新宿区・川崎市

名人に聞く一粒のおいしさへのこだわり 採れたて!旬の味覚試食会

■10月10日(金) 渋谷区立商工会館

(有)山形南陽のんのん俱楽部の鈴木秀男さんをお招きして、シャインマスカットを含む計4種類のぶどうを試食。梅雨時からの異常な猛暑、鳥獣害との闘い、新品種の開発等のお話、参加者からの質問にも丁寧にお答えいただきました。もぎたての超大粒なぶどうのおいしさに加えて、生産者のご苦労を聞くことで、心通わせ合うかけがえのない時間となりました。

第3 地域
板橋区・北区・豊島区・文京区・千代田区・川口市・戸田市

児童養護施設や里親家庭で暮らす子どもたちへ~いま私たちにできること~

■6月26日(木) としま区民センター(+オンライン)

二葉乳児院の職員を講師に招き、里親制度や養子縁組について話を伺いました。養子縁組の他にも抱っこや学習支援、一時預かりなど様々なボランティア活動が紹介され、興味はあります一步が踏み出せない参加者にとって意義深い会となりました。引き続き行われたサロンでも、講師を交えて活発な意見交換が行われました。

第4 地域
練馬区・清瀬市・東久留米市・西東京市・和光市・朝霞市・新座市

牛乳パックが「東都もーもーロール・紙芯のないトイレットロール」に生まれ変わるまで

■6月24日(火) 練馬区立勤労福祉会館

丸富製紙(株)の工場の動画や簡単なクイズを交えて楽しく学習しました。「牛乳の消費が減っているので牛乳パックの確保が難くなっている。なるべく東都生協へ戻してほしい」との説明。参加者からは「紙パックが上質な紙資源のこと、とても分かりやすく勉強になりました」「環境汚染の対策がしっかりされていることが分かった」などの声がありました。

第5 地域
杉並区・中野区

Tohoto Fan Meeting (株)藤井養蜂場「はちみつ」試食交流会

■6月21日(土) 高井戸地域区民センター

(株)藤井養蜂場の小笠原さんを講師にお招きし、第51回通常総代会後の総代交流会も兼ねて地域で開催するTohoto Fan Meetingとして開催。はちみつの基礎知識や上手な使い方レシピをたくさん教えてもらしながらの試飲と試食。20種のはちみつから好きな味を確かめることもでき、盛りだくさんの企画となりました。

第6 地域
世田谷区

美味しいコーヒーの入れ方教室

■9月10日(水) 宮坂区民センター

小川珈琲(株)の三輪さんからコーヒーの基礎知識やおいしく淹れるコツを教わった後、参加者が各自で2種類のコーヒーを淹れその香りと味を楽しめました。久しぶりのコーヒー企画に3人の初参加もありました。アンケートには「正しい淹れ方を知れた」「これからコーヒーを淹れるのが楽しみになった」などが書かれており、新しい発見もあったようで大変好評でした。

第7 地域
調布市・狛江市・小金井市・府中市・三鷹市・武蔵野市

おさかな学習会

■7月23日(水) 調布市市民プラザあくろす

大人14人・子ども1人が参加。もっとお魚を食べようとの思いから、千倉水産加工販売(株)の古川さん、有馬さんを講師に、東都しめさばの押し寿司を作ったり、工場内の様子を動画で視聴したり、鮭を焼いて試食したりと盛りだくさん。解凍のポイント、押し寿司の簡単きれいな作り方、そして漁業関連の厳しい状況などを理解しました。

第8 地域
八王子市・町田市・稲城市・多摩市・横浜市・大和市・相模原市

お茶を飲み飲み、お米会議

■10月8日(水) ソレイユさがみ(シティ・プラザはしもと)

お米の生産現場の声を聞き、私たち組合員に何ができるかを考える場として開催。8月に開催された「日本の水田を守ろう!みんなdeミーティング」の動画を視聴。商品部職員からは「約束米」の説明がありました。3種類のお米を試食し、おいしい産直米を味わいながら、登録して利用することの大切さを再認識する機会になりました。

第9 地域
東村山市・小平市・国分寺市・国立市・立川市・日野市・東大和市・昭島市・福生市・武蔵村山市・瑞穂町・羽村市・あきる野市・日の出町・青梅市・奥多摩町・檜原村・入間市・所沢市・飯能市

おかずキットお試しランチ会

■9月26日(金) 柴崎学習館

商品部のおかずキット担当の職員を講師に、野菜や肉は国産のみを使用するなどのこだわりや各メーカーの特徴を学びました。その後、食材や味の違いを試すため、3つのメーカーのおかずキットを調理し、金芽米のご飯と一緒に試食しました。味の感想を言い合ったり、職員と商品について意見交換をして、おいしく楽しく交流しました。



2025年度 事業の取り組み

本部の移転

4月7日、東都生協の本部は、設立の地・世田谷区から多摩市に移転しました。部署ごとに何となく分かれているものの、コミュニケーションを深化させるため「フリーアドレスデスク」を採用し、その都度座る場所を変えられるようにしました。また、商品開発用のテストキッチンも新たに設けました。



2025年3月21日から11月20までの組合員の純増は1,373人。供給体制不足が続く中、仲間づくりに動いている職員が想定の約3分の2(49人)となっており、年間目標6,000人の達成は難しい状況です。共同購入事業の1人当たり利用金額(注文書1枚当たり利用高)は前年・予算を上回っていますが、利用人数は減少傾向にあります。ひと

りでも多くの組合員に東都生協を長く利用いただける提案を続けていきます。

事業経費については、人件費は前年・予算を上回っています。賞与の支給増や出向受け入れ、派遣人件費などが要因です。物件費は、水道光熱費や広報費などの減少もあり、前年・予算ともに下回っています。

※数値は2025年11月20日現在

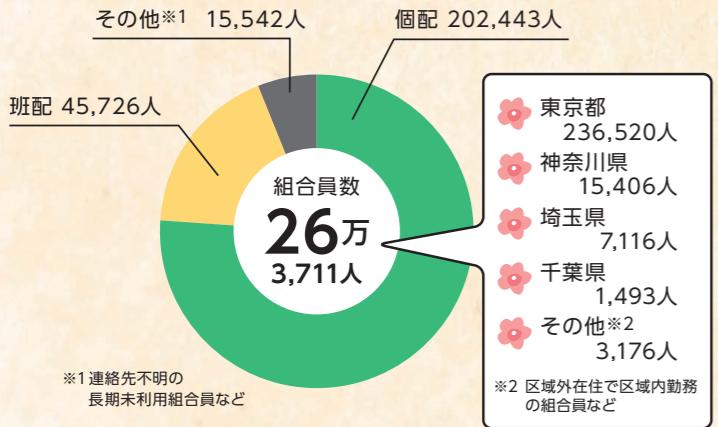
利用状況	
延べ利用人数	3,302,782人
注文書1枚当たり利用高	6,479円

仲間づくり

加入者数	
加入者数	8,453人
脱退者数	7,080人
増加数	1,373人

出資金総額と組合員1人当たり出資金額	
出資金総額 (出資預かり金を含む)	64億1,897万円
組合員1人当たり出資金額	24,341円

組合員人数



登録米改め「約束米」

1993年の米の大凶作「平成の米騒動」を受けて始まった東都生協の「登録米」制度は、「令和のコメ騒動」を経て今年度から「約束米」になりました。約束米は、「組合員の食べ続ける約束があるて、生産者は作り続けられる」をかたちにした商品です。継続的に食べる約束をすることで、生産の見通しが立ち、生産者が安心してお米作りに取り組むことができます。

2025年産の約束米新規登録には、1万人を超える申し込みがあり、継続利用と併せて約2万1千人に登録いただきました。約束米は不作時でも、組合員が登録した規格・銘柄を優先してお届けしています。約束米を利用して、お気に入りの銘柄を安心して楽しみ、産地や生産者を応援ていきましょう。



東都生協アプリ誕生

5月12日、「東都生協アプリ」を公開しました。どうとねっと(インターネット注文サイト)の注文方法に、以前提供していたアプリ「スマ注」で好評だった「注文電卓」機能注文も付いています。イベントの検索や、他の組合員と交流できる機能もあります。



EVトラックの導入

宅配事業における環境負荷低減の一環として、配送車両に電気自動車(EV)トラック2台を導入し、9月17日に調布センターにて出発式を開催しました。今回導入されたEV車両は、最大積載量1.65トン、航続距離は約100kmです。



いつものトラックとは異なるデザインです。



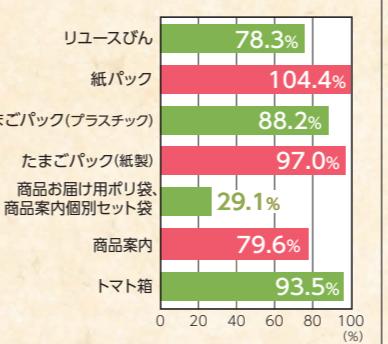
東都生協が取り組む募金・署名・3R活動*報告

※3R活動とは

- ①リデュース(発生抑制)
- ②リユース(再使用)
- ③リサイクル(再生利用)です。

リユース・リサイクル品は、毎週の供給時に回収しています。大切な資源ですので、東都生協にご返却ください。

リユース・リサイクル品の回収率 【2025年11月20日現在】



●きょうされん*1 第48次国会請願署名*2 3,625筆

*1 障害のある人たちが地域社会の中で、豊かに働き暮らすことを目指して活動する全国組織
*2 障害福祉についての法制度拡充を求める請願署名

- リサイクル洗びんセンター支援募金 2,113,400円
- 書き損じはがきなど回収キャンペーン 4,720,234円
(きょうされん行き(書き損じはがき):1,173,618円、ハンガー・フリー・ワールド行き(はがき以外):3,546,616円)
- 災害支援募金 476,800円
- 東日本大震災支援募金 7,071円
- 1点1円募金 985,400円
- 平和募金 5,252,602円
(2025年度助成金額上限2,100,000円含む)

2026年度 活動・事業の計画(案)

1. 持続可能な事業運営

組合員拡大や利用関連のシステムを補強し、地域コミュニティの活動も活性化させ、参加組合員を増やして事業と活動を支えます。組合員の純増数3,020人、新規組合員の3ヶ月後利用継続率80%、一人当たり平均利用高5,000円を目指します。

2. 組合員参加と対話による新たな産直の創出

組合員の農作業や田舎暮らしの体験などに旺盛に取り組み、これまでの産地訪問での交流にとどまらない魅力ある企画の工夫で、参加組合員を増やします。また、産直品の品質と食味の向上、納得価格で、組合員満足と商品利用を高めます。

3. くらしに寄り添う商品・サービスの提供

ライフステージや生活環境の多様化に対応した安全・安心、便利で共感を生む商品・サービスの展開。商品紹介や産地・メーカー交流訪問を通じて商品の良さが実感できる機会を提供することで、組合員の一人当たり利用点数を伸ばします。

4. 持続可能な社会づくりへの共同行動

行政・他生協・団体との連携を通じて、東都生協福祉政策2035の推進、平和、環境、食と農、くらしの取り組みを進め、東都生協2030年ビジョンの実現に繋がる活動を活性化、組合員とともに社会的責任を果たします。

5. 情報の分かりやすさ、信頼と共感の向上

情報スルー時代の伝達デザインを模索し、情報を受け取る未加入者に合わせた工夫を追究します。また、デジタルツールの活用で情報の届き方と受け止め方を刷新することで、経費の効率的な活用を探ります。

6. 安定的な人材確保と業務・活動の継承

職員の採用継続と適正人員の計画的配置、これから東都生協を担う組合員・役職員の次世代リーダーの育成で安定した業務の執行と継承を目指します。また、商品活動や商品委員会の組み立てなどを見直して商品・産直に影響を与える活動を追究します。



計画案についても、「わたしの声カード」であなたの意見・要望をお寄せください。

〈第1回総代会議〉

2025年11月28日～12月2日、オンライン2会場を含む10会場で開催。2025年度の活動・事業の中間報告と質疑応答を行い、分散会では、産地直結の強化、持続可能な社会を次世代につなげるために組合員としてできること、東都生協全体として取り組むべきことについて意見を交換しました。

〈総代の声〉

産直が続けられないかもしれない危機感が思っている以上に深刻だと感じました。生産者の方が抱えている課題をもっと組合員に情報を広めてほしいです。

グループごとに総代の方々や職員の方々と意見交換や質問などがでてとても刺激になりました。

〈総代会議の様子〉



一人ひとりの声を2026年度の計画に生かします。

わたしの声 カード(アンケート)

ご提出
お待ちして
います!



組合員の皆さんの意見や要望を募集します。

あなたの声を「わたしの声カード」(アンケート)で
発信してください!

2月13日(金) までに供給時に注文書と一緒に提出ください。

●インターネット経由でも承ります。→
右の二次元コードをスマートフォンやタブレットなどから読み取っていただくと専用フォームから入力・送信ができます。
<https://forms.office.com/r/ggT9MxgfYY>



※いただいた声についての個別回答はいたしませんのでご了承ください。

1. 2026年度 活動・事業 計画案への要望・思い

※8ページの「2025年度 活動・事業の
計画案」も参照ください。

昨年の声より
なかなか産地訪問へ
行けませんが、
おいしいフルーツや
新鮮な野菜にめぐり
あいたいです。

2. 商品・仕組みへの 意見・期待

昨年の声より
生産者との
直接のつながりが
東都生協の
強みだと思います。

表(8ページ)にもお書きください。

組合員の皆さんの意見や要望を募集します。
あなたの声を「わたしの声カード」
(アンケート)で発信してください!



2月13日(金) までに供給時に注文書と一緒に提出ください。

●インターネット経由でも承ります。→
右の二次元コードをスマートフォンやタブレットなどから読み取っていただくと専用フォームから入力・送信ができます。
<https://forms.office.com/r/ggT9MxgfYY>



※いただいた声についての個別回答はいたしませんのでご了承ください。

3. 本誌2~7ページについてお聞きします

A この冊子で関心のある項目(複数選択可)

当てはまるもの全てに○をつけてください。

- P2-3 平和なくして生協なし
- P4-5 あなたの地域の組合員活動
- P6-7 2025年度 事業の取り組み
- その他 []

B 上記を選んだ理由、 感想や意見などをお書きください

4. その他(供給担当者へのメッセージなど)



お名前
(ペンネーム可)

お住まい

区・市・町・村

年代 (○をつけてください)

20代未満・20代・30代・40代・50代・60代・70代・80代・90代以上

※ いただいた声は、意見集などに掲載する場合がありますが、
お名前を掲載することはありません。

裏(7ページ)にもお書きください。

2026年1月 東都生活協同組合「私たちの東都生協」センター→総合企画室